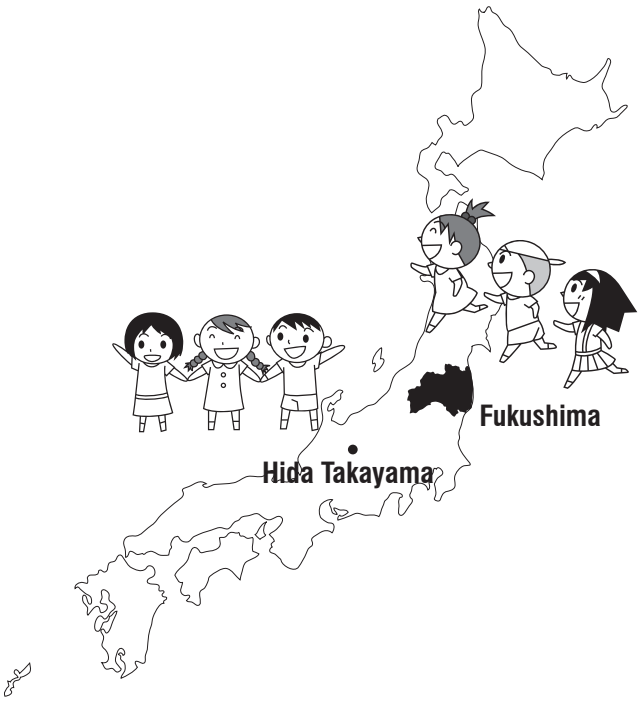
２０１４年春休み
ふくしまキッズ ｉｎ 飛騨高山
(２０１４年3月２５日～４月３日)

活動報告書



主催 ふくしまキッズ実行委員会

協力 高山市教育委員会
ＮＰＯ法人 教育支援協会東海

後援 岐阜県教育委員会
各務原市教育委員会
垂井町教育委員会

「ふくしまキッズ」春のプログラム全体概要

ごあいさつ

東日本大震災後、2011年の夏休みより始まった「ふくしまキッズ」ですが、全国の数多くの支援者の皆さまのお蔭で、3年間継続してプログラムを実施させていただくことができました。皆さまの温かいご厚情に心より感謝いたします。

東海地方では、2012年の春休みより、高山市教育員会さまを始め、岐阜県及び高山市の実に多くの団体さま並びに住民の皆さまのご支援を賜り、高山市を中心にふくしまキッズを実施させていただいています。

本年の春休みは、福島の保護者の皆さまの「より長く転地させたい」とのご要望に応え、前回よりも期間を延ばしてプログラムを実施いたしました。高山に入る前に各務原で過ごし、集団生活に慣れるとともに、互いに友情を芽生えさせた上で高山に入りました。高山では前回に引き続き、ホームステイを体験させていただき、福島の子どもたちは高山の人たちの温かさに触れるとともに、さまざまな貴重な体験をさせていただきました。ホストファミリーの皆さまには心よりお礼申し上げます。

ホームステイの後は、朴葉荘を拠点に、実に多くの地元の皆さまのご支援により、様々な体験活動をさせていただきました。市内散策や熟議を通して、高山の小学生の皆さんとも様々な交流ができました。

飛騨高山プログラムにはリピーターの子どもたちもいましたし、「来年も高山に戻ってきたい」という子どもたちもいました。放射能の影響でいまだ不便を強いられ、将来への不安を抱えている福島の子どもたちが、こうしたプログラムを通して、少しでも元気な子どもらしさを取り戻し、そして将来への希望を胸に抱いてくれることを願って、来年も是非実施したいと思います。

この度ご支援いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

ふくしまキッズ飛騨高山プログラム　総責任者
NPO 教育支援協会東海
代表理事　本多　功

名古屋市西区南川町297番地
TEL：052-505-4900 / FAX：052-506-9078
E-mail：info@kyoikushien-tokai.org

■活動趣旨

① 本プログラムは、福島原発事故により放射能汚染の深刻な影響を受けている福島の子どもたちに、せめて学校の長期休暇に、何の心配もなく、思いきり「子どもらしい生活」を送ってもらうと同時に、子どもたちの「学びと育ち」を支援する教育事業を実施し、多様な体験や人とのコミュニケーションをつくり出すことを目的とします。

② 本プログラムに賛同する家庭の子どもたち（小・中学生）を対象に、参加費は活動の一部費用のみの負担とし（生活保護家庭は全額無償）、応募者多数の場合には抽選により参加者を決定します。

③ 本プログラム実施に関わる諸経費は、支援金の寄付を募ります。ふくしまキッズを継続的に実践することで、支援の輪を徐々に広めながら、日本に「子どもは社会で育てる」という考え方を定着させる持続的な活動へとつなげていきます。

④ 本事業実施に当たっては実行委員会を結成し、ふくしまキッズの活動趣旨に賛同し、協力関係を築いていただける受け地（受入協議会）と協働し運営します。

ふくしまキッズ実行委員会

委員長	：	進士　徹	（NPOあぶくまエヌエスネット理事長）全体総括・福島県内活動受入れ担当
副委員長	：	吉田　博彦	（NPO教育支援協会代表理事長）支援金募集・渉外担当・事務局担当
実行委員	：	安江　こずゑ	（NPO教育支援協会北海道代表理事）事務局担当
実行委員	：	宮本　秀樹	（NPOねおす理事）北海道受入れ担当
実行委員	：	上田　融	（NPOねおす理事）北海道受入れ担当
実行委員	：	青野　信久	（子ども絆プロジェクト）愛媛受入れ担当
実行委員	：	芝野　靖	（NPO教育支援協会長野代表理事）信州受入れ担当
実行委員	：	石井　英行	（歩人クラブ事務局長）南会津受入れ担当
実行委員	：	奥田　宏明	（NPO教育支援協会横浜）横浜受入れ担当
実行委員	：	村瀬　容子	（ホールアース自然学校）静岡受入れ担当
実行委員	：	高橋　忠明	（NPO教育支援協会東海チーフコーディネーター）岐阜受入れ担当
実行委員	：	藤原　誉	（KENN関西自然教育ネットワーク運営委員）京都受入れ担当
実行委員	：	中井　達也	（新温泉町いなか体験協議会事務局）兵庫受入れ担当
実行委員	：	松永　公隆	（長崎純心大学教授）長崎受入れ担当
監査委員	：	金野　栄太郎	（公認会計士）会計管理・決算管理担当
監査委員	：	立川　直樹	（あずさ監査法人）会計管理・決算管理担当

ふくしまキッズ支援委員会

遠藤　和章	（北海道公民館協会事務局長）	
玄侑　宗久	（作家・震災復興構想会議委員）	
白石　康次郎	（海洋冒険家）	
ジョン・ギャスライト	（ツリークライミングジャパン）	
田口　ランディ	（作家）	
寺脇　研	（京都造形芸術大学教授）	
戸塚　隆	（ジャーナリスト）	
吉田　研作	（上智大学教授）	
湯川　れい子	（音楽評論、作詞家）	
藤田　保	（立教大教授）	
中島　岳志	（北海道大学大学院法学研究科准教授）	（50音順、敬称略）

ふくしまキッズ特別賛同人

秋山　豊寛	（ジャーナリスト・宇宙飛行士・京都造形芸術大学教授）	
荒井　満	（作家・作詞作曲家）	
鎌田　實	（医師・作家）	
小林　武史	（音楽家・an bank代表理事）	
坂本　龍一	（音楽家）	
辻井　喬	（詩人・作家）	
西田　敏行	（俳優）	
日野原　重明	（聖路加国際病院理事長・日本音楽療法学会理事長）	
細川　佳代子	（NPO法人勇気の翼インクルージョン2012理事長）	
吉永　小百合	（俳優）	（50音順、敬称略）

「ふくしまキッズ」飛騨高山プログラムの活動報告

1.開催日

3月25日（火）～4月3日（木）（9泊10日）

2.参加者

小学校１年生～小学校６年生　計36名

3.活動報告　『豊かな心で繋げよう未来に』～心おどる感動体験、心を繋ぐ交流～

ふくしまキッズ飛騨高山2014では、テーマである『豊かな心で繋げよう未来に』～心おどる感動体験、心を繋ぐ交流～達成に向け、さまざまな活動をしました。3度目を迎えた今回の飛騨高山プログラムは、大きく3つのステージで構成しました。

第1ステージは、各務原市少年自然の家で3泊4日の体験活動です。主な内容は、濃尾平野木曽川の畔、国宝犬山城が間近に見える各務原市少年自然の家での活動です。濃尾平野の暖かな春の野山での昼食の自炊や遊びを中心とした体験活動と、「航空自衛隊の基地」や「かかみがはら航空宇宙博物館」で航空宇宙技術を目の当たりにする体験活動をしました。子どもたちも初めての体験に興奮していました。またこの期間にオリエンテーションを行い、集団生活のルールを学ぶと共に、参加児童の交流を図り、互いの気心を知り、高山での主活動がより円滑になるよう準備しました。

第2ステージは、飛騨高山市内の小学生の子どもさんがいる家庭での2泊3日のホームステイです。4つの小学校の保護者の家庭がホストファミリーを引き受けていただきました。飛騨の家庭でゆったりと過ごし、またご家族との交流や様々な体験を通して、福島の子どもたちもとても楽しく貴重な思い出をつくることができました。

第3ステージは、飛騨高山市内の木立と川のせせらぎに囲まれた朴葉荘での4泊5日の民宿体験です。民宿を拠点としてさまざまな体験活動：飛騨高山ならではの人情、自然、木工芸、郷土食を体験しました。民宿では郷土食である五平餅や笹の葉寿司を調理し、食べる活動もしました。
稲本正氏が代表のオークビレッジでは、マイ箸の製作と飛騨の野山を楽しむ体験をしました。
また、情緒豊かな飛騨高山の町散策を高山の小学生がエスコートしてくれました。高山の小学生たちが実に入念に準備をしてくれ、その案内ぶりには感動させられました。高山の子どもたちと福島の子どもたちの良い交流の場ともなりました。
芸術体験では、芸術家、中島法晃氏のリードで、子どもたちは全身で表現する創作体験をしました。
更に、恒例となった「熟議」では高山市の子どもたちも参加し、高山市の子どもたちと１つのテーマで話し合いをしました。子どもたちからは本当に貴重な意見が飛び交い、この熟議によって、遠く離れていても、共に『ふるさと』に貢献できる礎を築き、未来に向けて共に歩んでいける仲間として心を繋ぐ体験となったことでしょう。
全行程を通じ、ふくしまキッズの意義を理解した、元気一杯の大学生のお兄さん、お姉さんたちが、子どもたちの活動をサポートしてくれました。
最後、岐路の途中には垂井町に立ち寄り、桜や鯉のぼり、清流に触れ、短い時間ではありましたが、垂井町の多くの人たちとも交流を持つことができました。

本年の飛騨高山プログラムも、全国の支援者の皆さま、高山の皆さま、そして多くのボランティアの皆さまより多大なるご支援を賜り、無事終了することができました。

＜プログラム＞

活動日	活動内容	活動内容	備考
3月25日 (火)	福島、郡山出発、岐阜羽島経由 各務原市到着	各務原市少年自然の家、熟議1	各務原市少年自然の家
3月26日 (水)	自炊活動	里山探検：小川探検	各務原市少年自然の家
3月27日 (木)	航空自衛隊各務原基地見学	かかみがはら航空宇宙科学博物館 見学	各務原市少年自然の家
3月28日 (金)	創造遊び	各務原市～高山市へ移動（バス）	ホームステイ
3月29日 (土)	ホームステイ（高山市内） 土曜教室（新宮小学校）		
3月30日 (日)	ホームステイ（高山市内）		民宿　朴葉荘
3月31日 (月)	郷土食体験：五平餅・笹の葉寿司	オークビレッジ：箸つくり、森林 体験	民宿　朴葉荘
4月1日 (火)	飛騨高山の町散策	飛騨高山の町散策	民宿　朴葉荘
4月2日 (水)	熟議2（南小多目的ホール）	芸術体験（南小体育館）	民宿　朴葉荘
4月3日 (木)	高山市～垂井町へ移動（バス）	垂井町～岐阜羽島駅経由郡山駅・福島駅	

4.子どもたちの主な活動場所・宿泊場所

◇各務原市立少年自然の家：〒509－0143　各務原市鵜沼小伊木町4丁目213　☎ 058－370－5258
◇民宿　朴葉荘：〒506－2115　岐阜県高山市丹生川町小野４５７－２　☎ 0577-79-2523
◇ホームステイ：岐阜県高山市内の小学校の保護者宅
◇現地本部：☎ 090－8557－6493（高橋忠明）・ 090－1472－0959（白井幸子）

5.運営体制

○総責任者：本多 功（NPO法人教育支援協会東海代表）
○連絡先事務局：名古屋市西区南川町297番地　☎ 052-505-4900
○現地連絡先事務局：高山市丹生川町日面73－1　☎ 0577-79-2005
○プログラム・安全管理責任者：本多 功（NPO法人教育支援協会東海代表理事）
　　鈴村仁孝（一般社団法人ふるさと体験飛騨高山事務局長）
○医療・カウンセリングチーム
地元医療機関：高山市赤十字病院 高山市天満町3－11　☎ 0577-32-1111
久美愛厚生病院 高山市中切町１－１　☎ 0577-32-1115
丹生川診療所 高山市丹生川町町方88　☎ 0577-78-1016

6.移動

○往　路：JR 福島駅・郡山駅より、東京経由岐阜羽島駅まで新幹線で移動
　　岐阜羽島駅から各務原市少年自然の家までバスで移動
　　各務原市少年自然の家から、高山市立新宮小学校までバスで移動
○復　路：高山市内民宿から垂井町経由岐阜羽島駅までバスで移動
　　岐阜羽島駅から東京経由JR郡山駅・福島駅まで新幹線で移動

7.往路

【集合場所 / 時間】3月25日（火）

・福島駅 8時45分 集合/受付開始　９時１６分　発
・郡山駅 9時 集合/受付開始　９時３０分
やまびこ128号⇒東京（10時48分着）（11時33分発）⇒ひかり511号⇒岐阜羽島駅
●到着場所：各務原市立少年自然の家
●想定移動時間：5時間30分ほど
　内訳：福島駅から岐阜羽島駅まで約4時間　岐阜羽島駅から各務原市少年自然の家まで約1時間
●現地到着予定時間：15：00頃

8.復路

【解散場所 / 時間】4月3日（木）

・郡山駅 18時00分　到着　解散
・福島駅 18時13分　到着　解散
・岐阜羽島駅（14時14分発）⇒【ひかり552号】⇒東京（16時10分着）
・東京駅（16時36分発）【やまびこ１４７号】⇒郡山（18時着）⇒福島（18時13分着）
●想定移動時間：９時間ほど
　内訳：高山市から垂井町まで約２時間３０分 垂井町で休憩１時間３０分
　　岐阜羽島駅までバス で約１時間 岐阜羽島駅から福島駅まで約４時間
●福島市到着予定時間：１８時２０分頃

２０１４年春「飛騨高山プログラム」活動記録

■　3月25日 (火)

福島から岐阜へ。これから10日間一緒に過ごす仲間との出会いがありました。最初はみんなやや緊張気味でしたが、移動の新幹線の中では早速ゲームや宿題をしたり、おしゃべりしたり、そして楽しい弁当で打ち解けていきました。これから思いっきり楽しもうね！

福島から各務原市へ。新幹線とバス、合わせて約6時間の移動で、やや疲れもありましたが、各務原市少年自然の家での生活が始まりました。ちらほら咲き始めた桜や犬山城に歓声があがりました。ベッドメーキングに、配膳、自分のことは自分でやる力がついています。

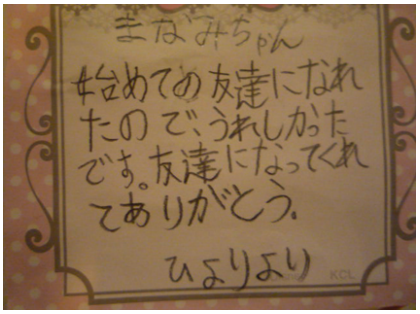
故郷を離れ、新しい仲間との生活に願いを込めて、黄色いバンダナに大きな字、小さな字でメッセージを書き、元気よく発表しました。このバンダナが将来良い思い出のひとつとなることでしょう。

■　3月26日(水)

今日の昼食はカレーライス。みんなで協力して調理しました。薪を燃やす難しさを体験し、煙も目にしみました。少々、危なっかしい包丁さばきでニンジン、ジャガイモ、タマネギを切りました。自分たちでつくったカレーは格別のおいしさでした。後片付けも最後までしっかりできました。すでに子どもたちの成長を感じます。

あいにくカレーライスの時には間に合いませんでしたが、手作りスプーンに挑戦です。
温もりのある木の取手に、キラキラ光るスプーン。この世にたった一つのマイスプーンにみんな満足気でした。

自由時間、体育館でたっぷりと身体を動かして思い思いに遊びました。共同生活2日目にして仲間意識が芽生え始め、互いに仲間の良さを見つけ、認め合うことができるようになっています。子どもたちの適応力には感心します。



■　3月27日 (木)

春の暖かな日差しの中、ややほころび始めた桜に見守られながら、「航空自衛隊各務原基地」を参観しました。自衛隊の方々に優しく丁寧にご案内していただき、本物の飛行機、消防車に触れさせていただきました。被災地における自衛隊の皆さんのご支援、ご助力に改めて感謝です。

午後からは、「かかみがはら航空宇宙博物館」で飛行機の発展の歴史を見学しました。特に男の子たちは興味津々でした。また仲間と一緒に思いっきり遊ぶこともできました。

夕食は「味噌カツ」！東海地方の名物に子どもたちも大満足です。ここで、ボランティアのお姉さんとのちょっぴり寂しい別れがありました。でも、わくわく期待一杯のホームステイ先へ。ホストファミリーへプレゼントするバンダナに一人ひとりの思いを書き込みました。

■　3月28日 (金)

いよいよ各務原最後の活動です。茂みの中へ自由に入っていき、みんなで「春」を見つけました。各務原少年自然の家を後に、いよいよ高山へ出発です。

高山市立新宮小学校に到着。期待と不安を抱え、ホストファミリーの方々と出会いました。事前に用意したプレゼントのバンダナも、みんな気持ちを込めて渡すことができました。喜んでもらえたかな？大きな荷物も運んでいただきました。家族の一員として迎えられ、子どもたちの緊張が少しずつ溶けていきました。福島のことを願って高山の皆さんが折っていただいた大きな折り鶴も迎えてくれました。皆さん、心のこもったお出迎え、本当にありがとうございました。これから2泊3日よろしくお願いします！

■　3月29日 (土)

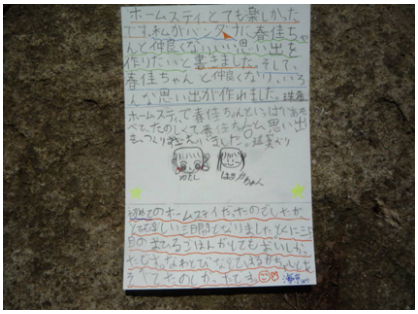
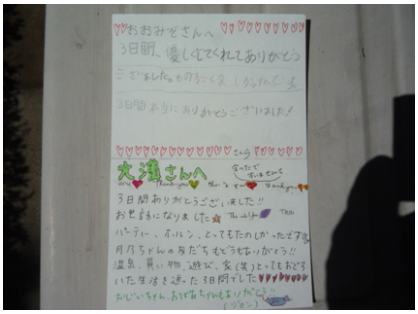
この日、新宮小学校で日曜学校が開催されました。高山の子どもたちに混じって福島の子どもたちも参加しました。バンダナを付けていないと区別がつかない程とけ込んでいました。

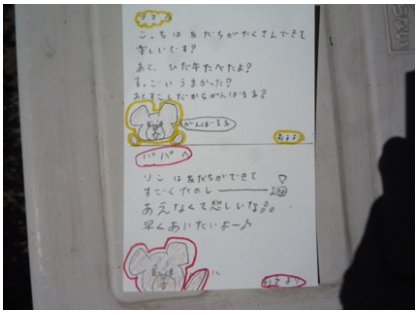
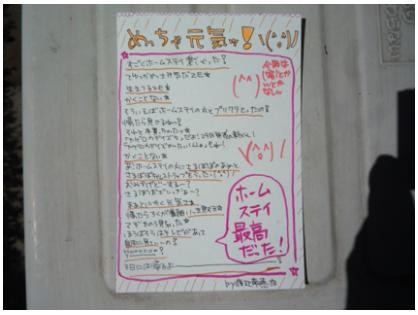
■　3月30日 (日)

ホームステイ最終日。降りしきる雨の中、各ホストファミリーの民さんが、民宿朴葉荘へ子どもたちを送っていただきました。短い期間でしたが、福島の子どもたちを家族の一員として受け入れていただき、また貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。高山に新しいお父さん、お母さん、兄弟ができました！

今日から民宿朴葉荘での共同生活が始まります。到着後、民宿のご主人、本多代表、ボランティアのお兄さんやお姉さんの話をしっかりと聞くことができました。夕食には飛騨牛の鉄板焼きも出て、テンションの上がった子どもたちでした。

ホームステイが終わり、民宿で早速ホームステイ先へのお礼のはがき、福島の家族へのはがきを書きました。みんな感謝の気持ちやそれぞれの思いを一生懸命書いていました。

■　3月31日(月)

今日は朝から郷土食体験。民宿の方々の指導でご飯を笹で包み笹寿司を、ご飯を木へらに巻き付けて五平餅を作りました。みんなで焼いた五平餅、口一杯に味噌の香りが広がり、格別のおいしさでした！

午後からは、オークビレッジで飛騨の里山散策とマイ箸作りです。里山ではバードウォッチングをしたり、落葉樹の森を観察しました。マイ箸作りでは職人さんに優しく教えていただき、すてきな箸ができあがりました。

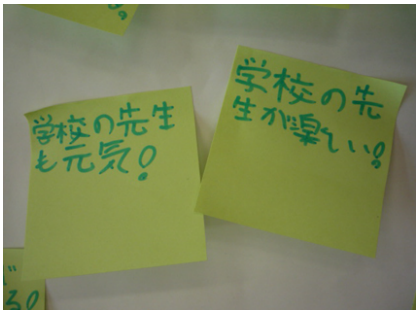
民宿では自由に活動する時間がたくさんあります。勉強を教えあったり、犬と遊んだり、昨年ホームステイした家庭の方々が尋ねてくださったり、子どもたちはゆったり、そして楽しく過ごしています。

■　4月1日 (火)

今日は終日、高山の市内散策です。まず、案内をしてくれる高山の子どもたちとの出会いから始まりました。高山の子どもたちは事前に学習会を開き、福島の子どもたちを案内するプランを綿密につくってくれました。高山の子どもたちは、福島の子どもに屋台蔵など高山の文化や歴史を実に堂々と説明してくれました。これには、周りの大人たちも感心至極。福島の子どもたちにもとても有意義な体験でしたが、高山の子どもたちにも大きな学びと達成感があったことと思います。お昼は、みんなで高山ラーメン、みたらし団子、飛騨牛の串焼き等を味わいました。最後に大切な家族へのおみやげもたくさん買うことができました。とても楽しい一日でした。高山の小学生の皆さん、本当にありがとう！

■　4月2日 (水)

高山市立南小学校でふくしまキッズ恒例の「熟議」を行いました。この日のために高山の子どもたちが書いてくれた「さるぼぼの絵」が出迎えてくれました。高山の子どもたちと一緒に考え合うことができました。校舎は新しく、たくさん木が使ってあり、春の暖かい日差しの下で、中庭でみんなと一緒に弁当を食べることができました。



午後、高山市立南小学校の体育館で、芸術家 中島法晃氏の指導のもと、全身を使って大きな桜の木を描きました。やはり福島の復興を願う言葉が溢れていました。この大きな絵は、高山市立南小学校に寄贈し、入学式に掲示されることになりました。南小学校の皆さん、ご協力ありがとうございました。

■　4月3日(木)

高山とお別れの日が来ました。最後の朝は、朴葉味噌を味わいました。ホームステイ先の方々が、見送りに来ていただきました。高山で過ごした6日間、ホストファミリーの皆さんの温かさに触れ、高山の子どもたちや多くの方々から優しさをいただき、様々な貴重な体験をさせていただきました。「来年、もう一度絶対に高山に来る！」と言っていた子も。この体験は福島の子どもたちの一生の思い出となることでしょう。こうして無事「ふくしまキッズ2014春・飛騨高山プログラム」を終えることができましたのも高山の皆さまのお蔭です。高山の皆さま、本当にありがとうございました！

名残惜しい気持ちを胸に高山を出発、岐路に。途中、垂井町を訪問。垂井町に立ち寄るのもこれで3回目。お昼には、垂井町の中学生のお兄さん、お姉さんと食事をしながら、鯉のぼり、桜、川の流れを楽しみました。春の川は、少し冷たかったけれど気持ちいい！心地よさと、プログラムがあと少しで終わる気のゆるみからか、上着とカバンを忘れた子がいました。おみやげだけは忘れていなかったようです。上着とカバンも無事に見つかり、後日、本人のもとへ届けられました。福島へ到着したときには、さぞ寒い思いをしたことでしょう。これもちょっぴり苦くて良い旅の思い出。

岐阜羽島駅から、いよいよ故郷福島へ帰ります。ボランティアのお兄さんやお姉さん、仲間との別れは寂しいけど、福島には最愛の家族が待っています。10日間でしたが、みんな確実に成長しています。ちょっぴりたくましくなった顔を家族に見せてあげてね。あと、少し、がんばろう！

飛騨高山プログラム 活動中のエピソード

■なかよしの木

「スタッフのみんな、ありがとう」
「ほのかちゃんへ：ごはんのときにはしをならべていてえらいね」
「おかちゃんいっぱいお話してくれてありがとう」「だいきくんへ：あそんでくれてありがとう。またいっしょにあそぼうね」
「高山の子へ：さんさくでわたしの話をきいてくれたり、しつ問に答えてくれてありがとう、高山のことが知れました。うれしかったです。やさしくしてくれてありがとう。」
等々、子どもたちが一日一枚、カードに仲間の良いことを書いて、模造紙に張り付けていきました。模造紙の中央には、なかよしの木を書き、枝の部分にカードを張っていきました。張り付けられたカードを見入る子ども、一日一枚は少ないよと言ってくる子ども、仲間に認められて喜ぶ子どもの姿がありました。また、福島では多くの子が転校していったので、一人でも多くの子と仲良くなりたいと語っていたB子さんの言葉が心に残りました。
9泊10日の飛騨高山プログラム、なかよしの木には、子どもたちの良いことの花で一杯になり、満開になりました。

■朋あり遠方より来る

夕食を終え、子どもたちがワイワイとくつろいでいる頃、朴葉荘へ4名の方が訪ねてきました。昨年、ホームステイを受け入れてくださった家庭の方々でした。昨年ホームステイをしたB君が、今年も飛騨高山に来ていることを知り、土産を持って訪問してくださったのでした。B君が現れると、ホストのお父さん、お母さんは、わが子の成長を喜ぶような表情を見せ、肩を抱き、手を握って、大きくなったねと声をかけてくださいました。ホストの子どもは男の子で中学生になっていて、弟と出会う兄のようにニコニコとしていました。ホストのお父さんの話によると、昨年のホームステイ後も高山と福島の家族が連絡を取り合い、昨夏こちらから福島を訪問したこともあるとのことでした。また、福島の人情や気候は高山とよく似ていて親しみが湧くと語っておられました。ホームステイを通じて、子どもと子ども、大人と大人が互いに共感し、認め合える関係が築かれていることを改めて知り、私たちも嬉しくなりました。

■お土産

鯉のぼりがたなびき、両岸が満開の桜に彩られていた相川へ素足で入り、水遊びを思う存分楽しんだA君（小学校1年生）、福島で待っている3歳の弟への土産をしっかりと手に握り、故郷に戻る新幹線に乗っていきました。高山の町散策のときに購入したもので、身の丈の半分ほどもあるものでした。高山でグループからはぐれてしまった時も、ボランティアさんに右手を引いてもらいながらも左手にしっかりと握っていました。お兄ちゃんとして、どのような表情と言葉でお土産を渡すのかと思うとほのぼのとしたものを感じました。ところが、A君、リュックサックとコートを相川の河原に忘れていたのでした。調べていただいたところ、河原にポツンと残っていたそうです。早速、宅急便でA君のもとへ送っていただきました。A君、兄貴らしさと引き換えに、しばらく寒い思いしたことでしょう。

多くの方々に支えられ

今年も無事

「ふくしまキッズ飛騨高山プログラム」を

終了することができました。

皆さま、本当にありがとうございました。

また来年お会いできますことを！

保護者様からのメッセージ（参加前）

■震災からまもなく３年が経ちます。初年度に比べると放射線量も低くはなってきていますが、まだまだ安心して公園で遊ばせることは出来ません。公園を見ても「遊びたい」とは言わなくなってしまった子ども達ですが、他県へ行った時には、屋内の遊びの施設より公園で遊びたがる姿を見ると、「やっぱり我慢をしているんだなぁ」と、つくづく感じます。ですから、気兼ねなく外遊びが出来る『ふくしまキッズ』への参加をとても楽しみにしております。
また、ふくしまキッズへ参加するようになって、息子は幼い子の面倒をよく見たり、家の手伝いも率先してやってくれるようになりました。訪れた地域についても感心を持つようになり、視野が広がったようにも感じます。参加する度に息子の成長を垣間見ることが出来、今度はどんな成長を見せてくれるのかと思うと楽しみになります。
今回は昨年参加させて頂きました飛騨高山を第一希望としました。お世話になった家族とは手紙などで交流が続いていることもあり、この一年、息子がずっと再訪を熱望しておりました。熱望するほど息子の心に何かが残っているのかと思うと嬉しくなり、今回も応募させて頂きました。今回もどうぞ宜しくお願い致します。

■2012年冬・2013年冬と参加させていただきました。時の経過とともに放射能に関する情報が薄れ、さらにそのことが心配になっていることすら隠さなきゃいけない環境になっております。前例がないだけに、やはり娘の将来が心配です。休みの期間だけでも内部被爆の浄化をさせてあげたい。そしてその機会をあたえていただけることに感謝をする気持ちを人一倍感じてほしいと願っています。強い体とともに強い精神力、周りへの感謝の心と人と人とのつながりにやさしい気持ちを感じてほしく参加を希望いたしました。宜しくお願い致します。

■避難先から４月に戻ってきたのですが、放射能が気になり、未だに外で遊ばせることができずにいます。共働きのため福島県から長期間出してあげることができないので、ぜひ参加させて頂き、少しでも体内から放射能を取り除き、思い切りリフレッシュさせたいと思い応募致しました。

■体験活動を通して、自主性、協調性を身につけてもらいたい。また、自然と触れ合う機会がなかなか持つことができないため、思う存分自然と触れ合い、命の大切さを学んでほしい。よくないと思いながら、毎日の生活で親が手を貸すことが多くなってしまったため、自分で何かをやり遂げるという自信を持ってほしい。

■参加させたい一番の、理由は、のびのびと外遊びをさせたいからです。ふくしまキッズに参加する事で、同世代の子供達や、違う地域の子供達と接して、視野を広げてほしいと思います。飛騨高山コースを選んだ理由は、最近、星や宇宙に興味を持ち始めたので、是非、航空宇宙科学博物館を見学させたいと思いました。

■未だ消えない放射能への不安があり、短期間だけでも放射能から避けることができること、また、集団生活をすることにより子供が成長することを考え、是非参加させたいと思います。前回参加した際も楽しかったようで、たくましくなって帰ってきました。また、子供の成長を見るにつけ、私たち親もたくさんの方々に支えられて生きていることを再認識致しました。

■震災直後から参加させていただいております。参加コースの選定や内容の企画、スタッフの方々は大変な思いで作成していただいているに違いありません。子供たちがこのような機会に参加させていただくことで、日本各地の素晴らしい施設で何の心配もなく遊べ、宿泊ができ、食事も安心して食べることのできることを保護者として本当に感謝の限りです。よろしくお願いいたします。

■今回で７回目の参加となります。参加当初は、少しでも放射線量の低い地域への避難的な意味合いが大きかったのですが、回を重ねるたびに息子の成長が着実に見られるようになり、ふくしまキッズのプログラムが子どもの「生きる力」を着実に育んでくれていると実感するとともに、支援してくださっている方々に心より感謝致しております。このような有意義なプログラムを準備して頂き、事務局、ボランティア、地元の皆様には、心より感謝致します。

■毎回、いろいろな経験をさせていただき一回り大きくなって帰ってくる我が子に感動しております。知らない土地で新しい仲間と楽しい思い出を作ることは親にはとても経験させてあげられません。前回の愛媛では民泊を経験しとても楽しかったようで、また民泊のあるところが良いと申しております。よそのうちに（しかも知らない人）泊まれるような子供ではなかったので、自分に自信がついたのだなあととても驚いております。また世界を広げてきてくれることを期待して参加申し込みを致しました。どうぞ宜しくお願い致します。

■小学生活最後の思い出として、まだ参加したことのない所に行きたいと申しており、今回も申し込みさせて頂きました。３年に渡り参加してきましたが、一人では何もできず、思いきりの足りない娘でしたが、今考えると「成長したなぁ～」と感じる事がたくさんあります。今年度は6年生としての役割を理解し、頑張ったと思います。それも貴重な経験だったと思います。これを糧に、大きく成長し、自立した人になってもらいたいと考えております。宜しくお願い致します。

■いつも福島の子ども達を支援いただき、ありがとうございます。3回参加させていただきましたが、参加するたび色々な事を学び、成長して帰ってきます。「線量を気にせず思いっきり身体を動かしてきて欲しい～」という思いで参加させていますが、最近では、ふくしまキッズに参加するたびにたくましくなり、期待以上で、ありがたく思っています。他県の良いところも教えてくれるようになりました。福島も他の県も大好きになってほしいです。生きる力を身につけてほしいです。

■低線量の地で放射能を気にせず、子供らしい体験をして欲しいので申し込みました。自分のことは自分でできるように、また、スタッフさんのお手伝い等を進んでできるようになって欲しいとも願っています。

■継続的に一定期間保養させたいことが第一の理由です。子供の自主性の向上も期待したいところです。昨年の春プログラムから参加させていただいておりますが、参加する度に明らかに成長を感じております。今回は、飛騨高山のスタッフ、ボランティアの方々に再会したいという本人の強い希望があり、第一希望にさせていただきました。

■放射能の心配をせずに春休みを楽しんできてほしいと考えます。体が知らず知らずにうちにリフレッシュされ、浄化されることでしょう。スタッフの方々、リピーターの仲間、新しい友達とともに過ごすことで、人を思いやったり積極的に活動を行ったり協力したりといった心の成長も大いに期待します。学校では経験できない貴重な時間を満喫してきてほしいと願っております。あまり目立ちませんが下の子の面倒をみるほうなのでその点も発揮できる機会があるといいなと思います。

■運動不足なので放射能の心配をせずにのびのびと子供らしく過ごしてきてほしいです。
また、感謝の気持ちを持ち、思いやり、出会ったスタッフの方々や仲間たちとともに貴重な時間を共有してきてほしいと考えます。挨拶や返事などもしっかりさせたいことのひとつです。

■いつもお世話になっております。前回の北海道ではご迷惑、ご心配おかけしまして申し訳ありませんでした。迅速な対応感謝しております。前回のこともありどうしようかと迷いましたが本人が春も行きたいと言うので申し込みました。元来活発な子供で外で遊ぶのが大好きですが、福島ではなかなか遊ばせることができません。思い切り活動できる環境を作ってあげたく毎回申し込んでおります。ぜひよろしくお願いします。

■今回で6回目の参加です。春休みは初めての参加になりますが、ふくしまキッズは我が子にとってライフワークのようなものになっていて、春休みもどうしても参加したいとのことで、応募しました。スタッフさんや一緒に参加したお友だちと再会できることを楽しみにしています。

■5回の参加に伴いまして大変お世話になっております。震災から放射能を避け子供をただただ守りたい、のびのびと遊ばせたいと言う気持ちから参加させてきましが、その度に、受入地の皆さんを始め、たくさんの方々のご協力のおかげで、一人息子はたくさんの思い出をつくり、たくさんの経験をさせていただきました。私たち親もこの活動を通して色々勉強させていただいています。4月からは中学生になり、今後は部活などで参加するのが難しくなろうかと思います。皆さんと元気いっぱい過ごし、自分の目や体で様々なものを吸収し、自分の今後に繋げてほしいと願っています。

■子どもが放射線を気にせずのびのび活動でき、集団生活をする中で学び成長できる場が「ふくしまキッズ」だと思います。充実したプログラムで、毎回子どもも「今度はどんな体験ができるのかなぁ？」と楽しみにしていますし、帰宅後は笑顔でいろいろな話をしてくれます。また、健康面もしっかりしたサポートされていてとても安心です。

■今回で6回目の参加になりますが、成長期の多感な時期に、親や学校のお友達等身近な人だけでなく、いろいろな学校、年齢、職業の方々と関わり、幅広い考えを持って欲しいと考え、参加申し込みを致しました。第一希望を初めて北海道以外にしました。今回も何卒宜しくお願い致します。

■自宅周辺はまだ除染がされていないので、思いっきり活動させたいと思いました。ふくしまキッズに参加する前は自分から声かけなどできず、お兄ちゃんと一緒でないと何も出来なかったのに、お兄ちゃんとコースは一緒でも班が別だったにもかかわらず、自分で友達を作り、スタッフの方とも仲良させていただき、帰ってからも積極的に行動出来る様になったようです。

■初めて参加させた時は、長期保養が目的でした。当初、本人は参加には消極的でしたが、回を重ねる毎に次も参加したいと意欲的になってきました。「なぜ、ふくしまキッズ参加するのか」、「親としてどうして参加させたいのか」を少しずつ親子で話し合い、震災の事、原発事故の事を改めて考えさせられる機会でもあります。また、多くのボランティアの方の善意で支えられている「ふくしまキッズ」で、多くの方と出会い、多くの事を学ぶ事で、親子だけではできない成長をしてくれると思っています。

■前回の愛媛ではこれまでにない体験をさせていただきました。放射能の心配のない自然の中でのびのびと過ごしてきたようで、子供が一回り成長して帰って参りました。今回もよろしくお願いします。

■兄やいとこと一緒に参加しています。毎回、兄弟の絆が深くなって帰ってきます。親のいないところで、兄弟協力しあって、助け合ってきてほしいです。

■よろしくお願いいたします。環境の良いところで、思いっきり遊ばせたい。親元を離れることにより、自立心をつけさせたい。これが親の切なる願いです。

■毎回参加理由として書いていますが、「自然の中で思いっきり遊んでほしいため」、また「福島キッズへ参加している顔見知りのお友達に会って遊べるのを本人も楽しみにしているため」ふくしまキッズに参加させています。

■「他地域・同世代の子供たちとの交流」、「普段できない経験や活動を通しての社会性、道徳感の向上」、これがふくしまキッズへの参加動機です。

■低線量の地で放射能を気にせず、子供らしい体験をして欲しい。地元地域の方々との交流を通じてその土地の生活を体験して欲しい。

■色々な経験を通して、成長していくことを期待しています。

■子どもに集団生活を体験させ，人とのかかわりを体験させたい。

■集団生活を通して自立心を育んでほしい。

保護者様からのメッセージ（参加後）

■「はる&うきょう母」より
無事に、いわき市の我が家に到着いたしました。10日間、本当にお世話になりました。ふくしまキッズは、4回目の参加でしたが、今回は初めてのホームステイを体験させていただきました。
地元の方々と、深く交流出来たことで、岐阜への関心がまたさらに深まったと思います。
岐阜の方々の温かいご支援を受け、大きくたくましくなって帰ってきました。帰りの車では、色々な話を聞かせてくれた子ども達。
・飛騨牛がとっても、美味しかった！
・おだんごは、しょうゆ味だった！
・赤カブの漬物を、おばあちゃんにお土産に買ってきた！
・ボランティアの人に褒められた！
・代表になってあいさつをした！
などなど…話が尽きません。
自宅に戻ってからは早速、自分で作った箸を使って、夕飯をいただきました。貴重な体験をたくさんさせていただきました。関わって下さった全ての皆さまに、心より感謝いたします。
本当に、ありがとうございました！

■「わへい母」より
無事に私達の元に送り届けて下さり、本当にありがとうございました。出発前の期待と少しの心細さが入り混じった表情とはうってかわって、遠目から見てもわかるほどの満足げな表情で戻って参りました。「外でいっぱい走るんだ！」そう言って出かけて行った息子。川遊びや山や町の探索も出来て、心配事なく自然の中でのびのび遊べたのがとても嬉しかったようです。
ホストファミリーの方々にも本当にお世話になりました。見ず知らずの子供たちを受け入れてくださるのは、心身ともに大変なことだったと思います。前回のホストファミリーの方にも探索で出会えたようでとても喜んでいました。
携わってくださった全ての皆さまに心から御礼申し上げます。皆さまの温かい愛情に包まれて、ふくしまっ子は本当に幸せ者だなぁと感じました。改めてありがとうございました。

■「吉田兄妹の母」より
舞優と英彰は、行く前はホームスティは緊張するからとドキドキだったようでしたが、帰ってきての第一声は「楽しかった、ホームスティもあと10日間でも良かった。」と言っていました。
ホストファミリーの皆さんには、色んな所へ連れて行っていただき、またホストの子供さん達とも仲良くなれてたようです。二人の話は、スタッフやお友達のことなど次から次と出てきて、本当に楽しかったようで、「また行きたい」と言っています。
スタッフやホストファミリーの皆さん、福島の子供達を受け入れていただき、ありがとうございました。

■「はやた母」より
大変お世話になりました。たくさんの思い出、そして出会い、ドキドキわくわくを経験させていただきまして深く感謝申し上げます。話したいことは山ほどあるようですが心地よい疲れに誘われ、先ほど寝ました。スタッフの皆様、支えてくださった皆様、ありがとうございました。どうか、お疲れがでませんように。

■「ほし母ちゃん」より
おかげさまで愛美が無事に帰ってきました。有難うございました。『ただいま～！』元気いっぱいお土産いっぱいでした。『おる。』って言うんだよ！『岐阜楽しかった』『見て！お箸＆スプーン作ったの！』次から次へと沢山お話ししてくれました。ふくしまッ子に沢山の愛情を下さった高山市の皆さん、スタッフの皆さん、ボランティアの皆さん、そしてホストファミリーの皆さん、本当にありがとうございました。愛美の楽しいお土産話を聞きながら家族みんな感謝の気持ちでいっぱいでした。お世話になりました。有難うございました。

■「ひよ母」より
10日間大変お世話になりました。たくさんの方のご厚意で、充実した日々を過ごし、今回も元気に帰ってまいりました。心なしか見た目にも大きくなっているような気さえします。飛騨の自然にふれ、毎日のように地元の食材や郷土料理をいただいて、ふくしまキッズの子どもたちは幸せです。地元では、その良さを感じにくくなっていますが、体験を通して、大切にする心は育っていると感じます。3回目の飛騨高山でしたが、来年もまた「行きたい!!」そうです。娘にそう言わせてくださった、スタッフの皆さん、ホームステイ先のご家族の皆さん、ありがとうございました。

■「さーまま」より
飛騨高山プログラムのスタッフ、ボランティア、ホストファミリーの皆さまに沢山お世話になって、一回り大きくなって帰ってきました。毎日、楽しかった話をしています。様々な体験、いろんな所を訪れたこと、おいしい食事、友だちとの再会や新しいお友だちができたこと…とても素晴らしい１０日間をありがとうございました。来年も参加したいと、笑顔でいっています！

■「はぎわら」より
10日間大変お世話になりました。心身ともに一回り大きくなって帰ってきました。「今回は一度も泣かなかったよ。また行きたい！」と話しております。本当に楽しく、充実した時間を過ごしてきたのですね。スタッフの皆様、ホームステイの受け入れ家族の皆様、かかわってくださった皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

■「りこ母」より
ふくしまキッズに関わってくださった皆さま、お世話になりました。
「楽しかったよ！」と帰ってきた子供は、土産話を次から次へと話してくれました。そして今日は一日寝ています。10日間、貴重な体験をありがとうございました。

■「だいきんぐ」より
無事に帰宅。10日ぶりに会った我が子は自身に満ち溢れ、成長を感じました。
今回、関わって下さった全ての皆さまに感謝いたします。本当にありがとうございました。

■「はそべ」より
無事到着良かったです。
皆さんには、大変お世話になりありがとうございました。友達もたくさん出来て、本当に楽しかったようです。

■「ひなた＆ひかり母」より
スタッフさん、地元の方々、ホームステイ先のご家族の方々、高学年の皆さんとたくさんの方々に見守られて、無事にたくさんの思い出とともに帰ってきました。ありがとうござました。

ボランティアスタッフからのメッセージ

■大森美瑠
ふくしまキッズの参加は今回が初めてでした。この活動を知った時、そして活動が終わるまでを通して、様々な場面でふくしまの子どものことを思う大人達の心に触れました。このことが、子ども達との交流と同じくらい、今回私の中では大きな体験だったように感じます。むしろ、ふくしまキッズの子ども達との交流の中で、子ども達を守り育ててきたであろう大人達の存在を感じました。子ども達の言葉や行動、細かな振る舞いから、なぜか私の方が包まれたような気持ちになった不思議な体験です。
ふくしまキッズという取り組みの結果は、試験や偏差値などの数字では分かりません。しかし、ふくしまの子ども達にとって、また私たちのようなボランティアにとっても、この体験は、将来意味のあるものとなるのではないかと思います。
「世界」「希望」「夢」「協力」
あの桜の木のワークショップでの子ども達のことばです。子ども達の心の中にあるものは本当にはまだ見えませんが、未来へ繋がる種が子ども達の心の中で育まれつつあるように感じ、胸が熱くなりました。
今はまだ守られている側です。しかし、ふくしまキッズの子ども達だけでなく、全国、世界の子どもたちの中にその種を植え、いつか大きく桜の木となって花を咲かせることの出来る日が来るまで、見守っていける大人になりたいと思いました。

■山縣広晃
「ふくしまキッズ・飛騨高山プログラム」に参加させて頂き感じたことは、今回出会った福島の子供達は普通の小学生達と何一つ変わらないなということでした。３年前、今よりも幼かった彼らが東日本大震災で抱えた不安や恐怖は、ほとんど震災の影響がなかった岐阜で過ごしていた僕には推し量りかねます。見えない放射線に怯え、外で遊ぶことさえままならなかった彼らが不遇で仕方ありません。しかし、３年たった今、彼らが僕に見せてくれた笑顔は近所で見かける小学生のそれとなんら変わりませんでした。
もちろん、中には今もなお漠然と抱える薄暗い感情を必死で心の隅へ隅へと追いやり、必死で笑顔を作りだしている子もいるでしょう。ただ、幼いときに大震災を経験するという逆境を乗り越えて普通の小学生でいることができる、というのは彼らが３年をかけて勝ち取った何事にも代えがたい力だと思います。きっとその力が、これから福島の復興を支えていくことでしょう。
震災から３年、原発を始め解決の糸口さえ見つからない問題が今もなお山積みです。一方で、その問題を解決に導いていく人材は確かに育っています。彼らの屈託のない眩しい笑顔が、いつの日か福島を復興へ導く一筋の光になることを願ってやみません。

■谷野　友香
今回特に心に残ったエピソードは、まなちゃんがペンを一本失くしたと言って、泣きそうだった時に、まなかちゃんが「どんなペンなのか、何色がないと思うのか」など、いろいろなことを詳しく聞き、一生懸命になってスーツケースや物を動かしたりして探してあげていた行動です。
同じ部屋でも、無関心な子もいる中、違う部屋でたまたまそこにいただけなのに探してあげているまなかちゃんの行動に感動しました。他にも、高学年の子が低学年の子を気遣ってあげている姿を多く見ることが出来ました。ふくしまキッズに参加することで、多くのことを学ぶことが出来ました。ありがとうございました。また、ぜひ参加したいです。

■堀部　力

私が参加したのは、3泊4日という短い間でしたが、ふくしまキッズの子供たちとはとても貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

一緒に過ごす中で、ちょっとした話の中にも震災の影響を感じることがありました。話しやすい話題と思い、新学期のことを離した際には、「来年は何人（転校で）減るかわからない。」とぽつりと漏らす子がいたり、ドッチボールの上手な子に、「スポーツをしているの？」と聞いた際には「前はやってたけど、今は遠くまで行かないとチームがなくてできないからやってない。」とさみしそうに言っていたことが強く印象に残っています。

そんな苦労をしている子供たちも、各務原での3泊4日は本当に楽しそうに遊び、36人の仲間の中で新しい人間関係をどんどん構築していっているのを見ることができて本当にうれしかったです。高山での残りの時間も楽しいことばかりだと思います。子供たちにはこの岐阜での体験を本当に良いものにしてもらいたいと思います。

■宇野　紀和子

私が一番心に残ったエピソードは、お化け屋敷です。私の担当していた部屋の女の子たち(りこ、しーちゃん、ひなた、つーちゃん、はる、たま)が2日目から企画していて、自由時間の間、招待状や看板作りなどみんなで協力している姿を見ていました。2日目の夜、男の子とけんかしてしまって一度お化け屋敷が中止になってしまいました。当初は男の子が悪いと怒っていましたが、私がほんのちょっとだけアドバイスをしたら、男の子の部屋に行ってみんなで「ごめんね。仲直りしよう。」と言いに行ったのがすごく嬉しかったです。3日目に行われたお化け屋敷は大盛り上がりで、他の部屋の子たちもすごく楽しそうに何度も足を運んでいました。もちろん私も行きましたが、かなりクオリティが高くて驚きました。恥ずかしがる様子もなく、堂々と驚かせたり、大きな声で案内したり規制したりしている様子が印象的でした。子どもたちだけでここまで完成度の高いイベントを作り上げたのは本当にすごいと思います。とにかく、子どもたちの団結力や企画力、たくましさに、ただただ驚かされました。

■佐々木　明里

ふくしまキッズを通して私は、子どもたちが思い切り自然の中で遊ぶことの大切さを改めて感じるとともに、学校の先生相手では見られないであろう姿や表情を見せる子どもたちと過ごすことで、子どもたちなりの素直な思いや感情を感じとることができたように思います。

今回は1年生から6年生まで一緒に共同生活をする中で、年長の子が年少の子を気にかけたり、導いたりする姿が多く見られました。時には私たちよりも遥かにうまく、年少の子をやる気にさせたりしていて、私たちの方が驚かされました。異年齢交流の素晴らしさです。

また兄弟や姉妹で参加していた子どもたちも多く、上の子が下の子を律する姿も見られました。

しかし、時には上の子がスタッフに甘えてくる姿もあり、その子どもらしさに思わずかわいらしさを感じたものです。ひょっとしたら、いつも家や学校でなかなか甘えられない子も、スタッフだとお兄さん、お姉さんのように感じ、ついついいつもはしないような甘える姿勢を見せるのかなと感じました。

熟議の時、ディスカッションがなかなかうまく進行しなかったチームが、最終的にはとても上手に発表するところまで考えをまとめていく様子を見て、「小学生も、機会さえあれば、すごい力を発揮するんだな」と感動しました。

今回のふくしまキッズは、子どもたちにとってはかなりの期間親元を離れる機会ですし、精神的に大変な面もかなりあったと思いますが、それでも環境に適応し、仲間たちと協調して、たくさんの事をこなしていく姿を見るにつけ、福島の子どもたちの生きる力のたくましさを強く感じました。

この子たちが将来の福島の復興を担っていってくれることを願います。

■小塩　幸代
私が一番心に残っているのは芸術体験です。最初は大変だなぁという印象でした。しかし実際にやってみると、たくさんの子供たちの笑顔を見ることができて、やって良かったって思うことができました。今でもその子供たちの輝かしい姿を思い浮かべては、私の方が元気をもらっています。
反対にここは改善した方がいいと思う所は、就寝した後の子供たちの行動です。ある時、一人の子が私に「一緒の部屋の子がテレビをつけだして、なかなか眠れない。」と言ってきました。このことについては私も把握しておらず、反省しました。眠たい子、疲れてる子、遊びたい子など、いろいろな子がいます。だからこそ、就寝後には私たちボランティアが各部屋を見回り、気を配ってあげる必要があったかなぁと思います。
私は今回のふくしまキッズに参加できて本当に良かったです。何より大勢の子供たちからエネルギーをもらいました。はじけんばかりの笑顔ではしゃいでいる姿を見ていると、私自身もがんばるぞ！という気持ちになれました。是非来年も参加したいと思っています。

■小松　浩也
今回、５日間子供たちと生活することで、子供たちだけでなく僕自信も様々な貴重な経験をさせてもらいました。最後の夕べの集い時の学生ボランティア挨拶の時はあだ名だけではなく、フルネームまで覚えていてくれたことが特に嬉しかったです。そして羽島駅での別れの時、「福島にも来てね！」と言ってくれたことがとても印象に残っています。
大変なこともありましたが、ふくしまキッズに参加できて本当によかったと思います。

■藤塚　一起
ふくしまキッズ飛騨高山プログラムに参加させていただきありがとうございました。福島の子供達にとって岐阜県の人との出逢いが大きな財産になったのではないかと思います。
10年後、20年後に子供達自身が振り返った時、きっと素晴らしい宝物になることを心から信じています。ありがとうございました。

新聞掲載記事

（第3種郵便物認可）

福島っ子 元気に遊ぶ

高山・新宮小児童と交流

出来たてのホットドッグをおいしそうにほおばる福島や地元の子どもたち＝高山市新宮町の新宮小で

東日本大震災の原発事故の影響が続く福島県の児童と、高山市新宮小学校の児童との交流会が二十九日、同市新宮町の同校であった。

福島県の一部では今でも放射線量が通常より高く、自由に外遊びができない。教育関係のNPO法人などでつくる「ふくしまキッズ実行委員会」が二年前から小学生たちを高山に招いている。今回は三十六人が二十五日から九泊十日の日程で、各務原市で泊まった後に高山市を訪れた。

子どもたちは、高山市や福島県に関連したクイズを解きながらウオークラリーをしたり、野外でホットドッグ作りを楽しんだりした。いわき市の小学六年松崎一樹君（二）は「放射線量を気にして休日も家で遊んでいる。高山の子どもすぐに仲良くなれたし、久しぶりに自由に外で遊べて楽しい」とほほ笑んだ。（酒井翔平）

新聞掲載記事

被災地の児童と交流

新宮小 クイズラリー楽しむ

東日本大震災と福島第1原発事故で被災した福島県の小学生36人が高山市を訪れ、29日に新宮小学校（同市新宮町）の児童たちとクイズラリーなどを楽しみ、交流を深めた。

福島県の児童に放射能汚染を心配せずに春休みを満喫してもらおうと、NPO法人「教育支援協会東海」などでつくる「ふくしまキッズ実行委員会」が実施。一昨年から高山市の一般社団法人「ふるさと体験飛騨高山」や市教委が協力し、同市に招いている。

福島県の児童たちは25日に各務原市を訪れた後、28日に高山市入り。4月3日まで市内の児童宅でホームステイ、五平餅などの郷土食づくり体験や同市の児童とともに古い町並みの散策などを楽しむ予定。

29日は新宮地区社会教育運営委員会が新宮小学校などで開いた土曜教室を訪問。福島県の児童たちは新宮小や滞在先の児童とともにグループになり、ラリーを体験。高山市や福島県にちなんだクイズを答えながら、のどかな田園を散策した。郡山市の桑野小4年の藤井日和さんは「たくさんの友達をつくりたい」と張り切っていた。

クイズラリーの後は調理も体験してホットドッグを頬張り、笑顔の輪を広げていた。（佐竹直人）

クイズラリーを楽しむ児童たち＝高山市新宮町

飛騨國新聞

ニュースは下記へどうぞ

ひだ高山総局　0577(32)0539
Fax　0577(34)2877
飛騨支局　0577(73)6030
Fax　0577(73)6056
下呂支局　0576(52)1115
Fax　0576(52)3233
金山連絡所　0576(32)3921
本社編集局　058(264)1166

購読お申し込み
フリーコール　0120(147)234
フリーFax　0120(347)410

建替え・新築・増改築のことなら
信頼・木と質にこだわりグループ
小さなリフォームからはじめよう!
匠プラザ21
岐阜新聞匠プラザ21事務局 ☎058-266-0165

【県内のポイント予報】

	きょう 6時	12	18	24	あす 6時	12	18
岐阜	☂	☂	☁	☁	☀	☀	☀
高山	☂	☂	☁	☁	☀	☀	☁
関	☂	☂	☁	☁	☀	☀	☀
大垣	☂	☂	☁	☁	☀	☀	☀
多治見	☂	☂	☁	☁	☀	☀	☀
郡上	☂	☂	☁	☁	☁	☀	☁
揖斐川	☂	☂	☁	☁	☀	☀	☀
中津川	☂	☂	☁	☁	☀	☀	☀
下呂	☂	☂	☁	☁	☁	☀	☁

ふくしまキッズ２０１４春　飛騨高山プログラム
支援者・協賛企業一覧

高山市小学校長会様
高山市立南小学校様
高山市立新宮小学校様
高山市福祉協議会様
一般社団法人ふるさと体験飛騨高山様
朴葉荘様
名務原市少年自然の家様
かかみがはら航空宇宙博物館様
航空自衛隊名務原基地様
オークビレッジ様
ぎふ学生ボランティア地域活動ネットワーク推進協議会様
垂井町立不破中学校生徒会様
垂井町立垂井北中学校生徒会様
NPO泉京・垂井様
原発問題を考える会様
㈱明治製菓様
工房てのひら 高橋勤子様
学生団体スタニティ様
中島法晃様
久保倉千明様
鈴村あすか様
関谷祐司様
㈱シネマズギックス 代表馬杉雅喜様
社会福祉法人フィロス様
㈱オーシャングローバルネットワーク様
㈱カムロ様
㈱MKサポート様
㈱トラベルクラフト様
㈱名大スカイ様
㈱アババイ様
㈱コーシン様
タイガーハウス工業株式会社様
鯱バス株式会社様
AUAU建築研究所様
谷口看板店様
宮川幹生様
森田一平様
渡邊あおい様
伊藤誠悟様

■ホストファミリー
門　秀樹様
北村真人様
川上和貴様
行森聖司様
新田竜治様
石原　実様
山東敬史様
桑原宏之様
辻　亮佑様
五十嵐進様
石垣誠二様
井畑慎一郎様
長瀬澄子様
糸田　尚様
清水英治様
大溝育代様
中谷　学様

■ボランティアスタッフ
高橋忠明
白井幸子
寺島浩子
宇野紀和子
堀部　力
谷野友香
藤塚一起
山縣広晃
岡本　唯
亀山瑠璃子
大森美瑠
三浦明美
小塩幸代
佐々木明里
小松浩也
西尾真由美
本多　功

■後援
岐阜県教育委員会
名務原市教育委員会
垂井町教育委員会

■協力
高山市教育委員会
NPO教育支援協会東海

■主催
ふくしまキッズ実行委員会

支援金のお願い

福島第一原発の被害から子どもたちを守り、支援するために結成されたのが、「ふくしまキッズ実行委員会」です。当実行委員会にNPOや行政機関、市民が参加し、学校の長期休暇を活用し「ふくしまキッズ」のプログラムを企画、運営しています。この活動にご賛同いただける皆さまに支援金をご寄附いただき、「ふくしまキッズ」にできる限り多くの福島の子どもたちが参加できるようご支援いただけましたら幸甚に存じます。
尚、寄付金は下記口座にお振込みいただけますようお願い申し上げます。

■振込先 /
三菱東京UFJ銀行・小田井（オタイ）支店（店番：238）・普通預金・４７５２０２２
特定非営利活動法人教育支援協会東海　代表理事　本多　功

ご寄附いただいた際には、下記e-mailまたはFAXにて、差支えない範囲で、お名前・ご連絡先・メッセージ等をお送りいただけましたら幸甚に存じます。
e-mail：info@kyoikushien-tokai.org　/ FAX：052-506-9078